

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2017. 4
No.284

TPMを深化させよう

3月のある日、本社製造現場にあるミストコレクターから発火しました。これは、まさしく保全技術や自主保全の未熟さそのものであり、大変な問題です。TPMの基本中の基本である「自分たちの設備に強くなる」ことが我々のTPMの目的であるはずなのに、何も管理されてなかったことが非常に残念です。

この状態を変えられなかったのは、社長である私の責任だと痛感しております。「通算7年間TPMを学んできて、今ここにきてこの様とは・・・と反省しきりです。

しかし、幸い大火災にならずに済んだのは、神様が我々にもうワンチャンスくださったからだと思います。

この火災については、生産準備をする人たちも考えて欲しいのです。設備を使い続けるのは製造の人たちなのです。準備するのは一回ですが、製造の人たちは一生その設備で作業をしなければならぬわけです。さらに、製造の人たちは、脚立を使った高所(3m)での重筋作業もやっていました。

相手の心を思う気持ち。イナテックの企業理念の中で、私がいつも話している『利他の心』です。

その設備を使う人のために、製造の人たちの苦労と安全をどれだけ考え、設備に盛り込めるかが生産準備する人たちの人間力ではないでしょうか。「今が良ければ良い」という考えは、もうやめましょう。お互いに気持ちよく、安全に仕事ができることが第一条件ではないでしょうか。

このような火災を二度と起こさないために、設備に強くなりTPMを深化させよう。

もつとTPMを深化させよう

もう一つ事例を紹介します。

会議室の床のワックスがはがれて汚れが落ちにくくなり、専門の方にワックス掛けをお願いするよう担当者が予算申請をしました。ところが、なかなか許可が下りないので、「なぜ認められないのか」、「経費削減のためなのか」と担当者たちがやるせない気持ちになっていた、という話を聞きました。

しかし、これはTPMの考えに沿えば、「前回はいつワックス掛けをしたのか」、「どんな手入れをすればワックスを傷めないのか」、「一番効率がいいワックス掛けはどのタイミングなのか」など、いろいろ調べた上での申請であるべきです。

「設備に強くなる」ことがTPMの目的です。ワックス掛けについて学び、少しでも安く、長持ちさせる方法を習得し、それをイナテックのノウハウにするのです。ただそれを業者に丸投げでは、TPMを勉強している意味がありません。

ミストコレクターやワックス掛けの件以外にも、それぞれの現場でこれらのような事例があるはずです。製造現場の人だけでなく事務間接の人も、もつとTPMを深化させてください。

上級救命講習修了

「応急手当と救命処置」の講習を受けました。皆さんにも講習で使ったテキストより一部を抜粋してご紹介します。

「私たちは、いつどこで突然の怪我や病気に襲われるかわかりません。そんな時に家庭や職場でできる手当のことを『応急手当』といいます。病院に行くまでに応急手当をすることで、けがや病気の悪化を防ぐことができます。

けがや病気の中でも最も緊急を要するものは、心臓や呼吸が止まってしまった場合です。急性心筋梗塞や脳卒中などは、何の前触れもなく起こることがあり、心臓と呼吸が突然止まってしまう原因となります。

プールで溺れたり、のどに餅を詰まらせたたり、あるいは怪我で大出血したときも、何もしなければやがては心臓と呼吸が止まってしまいます。ついさつきまで元気になっていたのに、突然心臓や呼吸が止まってしまった・・・こんな人を救うために、そばに居合わせた人が出来るだけ応急手当のことを『救命処置』といいます。」

(「応急手当講習テキスト」より)

私がこの「救命講習」を受講したのは、

(何も起らないことが一番良いのですが)万一身のまわりで事が起きた時、一歩前に出て、少しでもお役に立てればという思いからです。そして、このように一歩前に出られる生き方をしたいという、自分自身への学びのためでもあります。

有事の際には、まず自分の身を守ることが大切ですが、仲間やまわりの人も助けようという思いも持ちたいものです。

人进行いやる気持ち、『利他の心』がいつでもどこでも自然に表れる人になりましょう。

四六

春日氣象繁華、令人心神駘蕩、不若秋日雲白風清*、蘭芳桂馥、水天一色、上下空明、使人神骨俱清也。

春の日は大気のようにすもはなやかで、人の心をゆったりとのどかにさせてくれる。しかし、秋の日の雲は白く風は清く、蘭はかんばしく桂はにおい、昼は水も空も同じ一色に澄みわたり、夜は月光が空にも水にも冴えて、人の身をも心をも、すがすがしくさせるのには、どうてい及ばない。

